

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

| | |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 福島県 |
|-------|-----|

学校の概要（平成15年4月現在）

| | | | | | | | | | |
|-----|-------------|----|-----|-----|-----|----|------|-----|-----|
| 学校名 | 原町市立原町第三小学校 | | | | | | | | |
| 学 年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1 | 20 | 25 |
| 児童数 | 97 | 89 | 103 | 109 | 102 | 97 | 3 | 600 | |

研究の概要

1. 研究主題

| |
|---|
| 一人一人の児童に「確かな学力」を身につけさせる指導のあり方 児童の理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導を通して |
|---|

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

| |
|---|
| 1～6学年・算数 (児童の理解度の個人差が大きい教科であり、また、個に応じた指導が有効な単元を探り、その教材を開発するため) |
|---|

(2) 年次ごとの計画

| | |
|--------|--|
| 平成14年度 | <p>テーマ</p> <p>一人一人の児童に「確かな学力」を身につけさせる指導のあり方</p> <p>仮説</p> <p>算数科において児童の実態を的確に把握し、児童の理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導を計画実践できるように指導過程を工夫する</p> <p>教育活動全体を通して教育環境の改善を図る</p> <p>などの方策をとることにより、一人一人の児童に「確かな学力」が身に付くであろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>H14年度研究テーマ</p> <p>様々な実践を行い、個に応じた指導の可能性を探る。</p> </div> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 児童一人一人に「確かな学力」を身につけさせるため、児童の実態や指導上の課題などをつかみ、児童の理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導に取り組む。</p> <p>(2) 算数科を研究教科として取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実態調査 児童の学力の実態調査、組織や機構の問題点や課題の洗い出し、家庭の意識や意向調査などを行い、課題や改善点を見つけ出す。 ・ 各学年連携・小中連携 児童の習熟の変容を、次の学年での指導に役立てられるようにする。また、小6と中1の指導法に関して、中学校との密接な連携を図る。 ・ 発展学習・補充学習の機会や場の設定 単元学習後、発展・習熟・補充に関わるコースを設定し、児童が選択して学習を進めるシステムを設定する。少人数による学習の方法を工夫する。 ・ 学習の習慣化 毎朝15分間の学習時間を設定する。家庭学習の日常化を図る。 |
|--------|--|

| | |
|---|-----------------------------------|
| 平成 15 年度 | テーマ・仮説 平成14年度と同じ |
| | H15年度研究テーマ 繰り返し指導による「確かな学力」の定着 |
| 研究内容・方法 単元末（小単元末）における効果的な振り返りプリントの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の実態・各学年の指導内容をふまえて、習熟度別で指導する単元を明確にする。 ・ 習熟度別学習のための評価を行う。 ・ 理解が十分でない場合の補充問題について検討し問題を作成する。 ・ さらに理解を深めてほしい発展問題について検討し問題を作成する。 2，3単元を復習する振り返り学習のあり方 以前の学年までさかのぼった振り返り | |

| | |
|---|--|
| 平成 16 年度 | テーマ・仮説 平成14年度と同じ |
| | H15年度研究テーマ 繰り返し指導のシステム化により、無理なく「確かな学力」の定着を図る。 |
| 研究内容・方法 児童の実態・各学年の指導内容をふまえた、習熟度別問題の充実 年間を通した学習内容定着のためのシステムの構築 | |

(3) 研究推進体制

| | |
|--|--|
| 基礎学力向上推進委員会 内容 ・ 研究全体を見渡した、研究計画の策定を行う。 ・ 各研究部・各学年（ブロック）においてその中心となり、研究の推進力となる。 | |
| 各 研 究 部 | |
| コツコツプロジェクト | 10人 内容 算数の授業を通した習熟度別・コース別学習などのあり方を探る。 |
| ワクワクプロジェクト | 各学年一人 8人 内容 単元の中における発展的な学習（補充的内容を含む）の位置づけやあり方を探る。 また、学年・学校全体で取り組む活動を探る。 |
| ドキドキプロジェクト | 内容 達成基準の明確にし、各種アンケートによる変容調査や実態調査を行う。 |
| ランランプロジェクト | 内容 各研究部、実践部の研究の成果を取りまとめ、研究集録の資料とする。 ・ 地域の各学校や家庭への広報活動をする。 ・ インターネットを活用し、ホームページを作成する。 |
| 実 践 部 内容 各学年または、各学年ブロックを単位として、各研究部からでた案の具現化を図る。 | |

1. 研究成果

多様な形態での指導を柔軟に取り入れた。

ア 個に応じた指導を行うために、T・Tによる習熟度別指導を基本としながら、興味関心別や進級式学習、さらに学級の枠を取り払っての学年単位での取り組みなど、多様な指導形態を実践してきた。児童にとって、考える時にはじっくり考え、わからない時には質問することができ、よかったという感想が多く聞かれた。

イ 本時のことは本時のうちに定着することをめざしたが、さらに小単元末、単元末というように短いスパンごとに習熟の場を設け指導の重層化を図った。定着が不完全な内容を各自の実態に応じて支援をこまめに受けながら学習することによりより多くの児童がB基準を達成することができた。

個の力を伸ばすための評価の生かし方が見えてきた。

自己評価カードを活用して、分かったこと（時には分からなかったこと）や授業の感想を記入させた。児童が自分自身の学習を振り返る機会となった。

プリントの作成・累積

個に応じた問題作りの工夫については、本校の授業研究でも、何度も議論してきた。その中で、児童の思考をより深めるための発展的な問題として留意してきたことは次の点である。

ア 問題数を多くしてスピードも求めたり、多様な解答パターンの問題を出題したりした。

イ 数と計算領域の単元の場合、アルゴリズムの拡張で対応できる桁数を増やした問題。特に、指導系統表を意識して問題作りにあたった。

ウ より複雑な思考を要求するために、友達と解法を話し合う場を作るなどを組み合わせて実施してきた。評価と関連づけてプリント作成の意図を明確にしながら、作成・累積を行ってきた。

ワクワクプロジェクトによる算数の日常化

ワクワクプロジェクト主催の「算数クイズ大会」では、算数の楽しさ・便利さを感じながら活動することができた。問題も学年を越えて答えを導き出すことができるようなものを用意したので、いろいろな学年の問題に挑戦し児童の興味・関心を引き出すことができた。

学力テストの結果から

習熟度別コース学習を実施してのアンケートから

| |
|--|
| |
|--|

2. 今後の課題

学年の系統をふまえた、発展的な学習のための教材作り

これまでの研究では、その単元に応じた習熟・発展問題作りにとどまっていた。今後は、学年の系統を踏まえて効果的に発展的な内容を配置したり、振り返り学習の充実を図るための習熟問題のあり方などを研究し、6年間を通して実践可能なプリント教材作りを行いたい。

さらに長いスパンでの評価の活用・累積

今年度の研究で、単元内の評価方法についてはある程度見通しが持てきたが、その資料を学期や年間を通しての評価の中でどのように生かしていくかは、まだ明らかになっていない。どの単元でどの児童が学習内容の定着が不十分だったかを明確にして、追指導の形で個別指導やワクワク算数タイム時に支援を行い、該当学年の目標を達成できるようにしていきたい。

全校で行う算数的活動にむけて

たいへん盛り上がった「算数クイズ大会」であったが、今年度は時間的な配慮をしていなかったのでたいへん窮屈な運営になってしまった。一年間を見通して立案したり、学年間で問題を検討するなどして、より効果的に実施できるよう工夫していく必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

教研式標準学力検査 目的：集団基準に準拠した測定を行うため
時期：2月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・公開研究会実施（期日 平成15年10月31日）
- ・フロンティアスクールとしての実践記録を含むHP作成
（URL <http://www.haramachi3-e.fks.ed.jp/>）
- ・地区の研究協議会における研究成果の発表（期日 平成15年2月4日）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

| | | | | |
|----------------------|------------------------------------|----------------------------|------------|----------|
| 【新規校・継続校】 | 1 5 年度からの新規校 | 1 4 年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 6 学級以下 1 3 ~ 1 8 学級 2 5 学級以上 | 7 ~ 1 2 学級 1 9 ~ 2 4 学級 | | |
| 【指導体制】 | 少人数指導 一部教科担任制 | T . T による指導 その他 | | |
| 【研究教科】 | 国語 生活 体育 | 社会 音楽 その他 | 算数 図画工作 | 理科 家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | 有 | 無 | |